

見つけよう！今、元気なムラの取組



ディスカバー
農山漁村(むら)の宝

特別賞 フレンドシップ賞 仙北市農山村体験推進協議会



修学旅行で秋田県仙北市内を訪れる学校が増える中、農業体験で生徒を受け入れる農家も増え、農家民宿の開業につながる。仙北市農山村体験推進協議会は2009年、農山村体験受け入れ促進とグリーンツーリズム推進を目的として発足した。農協や漁協、観光協会などの団体に加え、農家民宿が加盟する各地域

教育旅行や外国人増加
農山村に活気生み出す

受け入れ農家が行っている農業体験(外国人受け入れ)



受け入れ農家が行っている農業体験(子ども受け入れ)

同市を訪れる一般観光客は伸び悩んでいるが、農山村を訪れる観光客や教育旅行の生徒数は増加傾向を見せている。近年では、これまで力を入れてきた台湾からの修学旅行の農山村体験への取り込みに加え、東南アジアからの観光客の増加が見られ、それらの動きが各メディアに多く取り上げられている。教育旅行や農山村体験で観光客らが農山村を訪れることは、農山村に活気を生み、地域の活力向上につながる。

協会の活動は、農家民宿を中心とした農業体験を行う従来のグリーンツーリズムには収まらず、季節による自然体験(スキー、トレッキングなど)や伝統工芸体験、郷土料理体験、文化体験など、受け入れ窓口が広く、さらにいろいろな組み合わせで体験できるのが特徴。

外国人の受け入れにも力を入れており、前述のような交流人口の増加、国際理解の進展といった成果を挙げている。具体的には、外国人向けセミナーやトラブルシューティングに関する勉強会の開催、フェイスブックなどを利用した活動内容の積極的な発信も行っている。受け入れ農家とそこで農業体験を行った外国人旅行者などがSNSでつながっていることも多く、その後のリピートや受け入れ拡大につながっている。

特別賞 プロデュース賞 高千穂ムラたび協議会



6次産業化原料の栽培で景観を保全する棚田

食や観光の魅力を作り
若者定着で交流人口増

2009年設立の高千穂ムラたび協議会の活動拠点、秋元集落(宮崎県高千穂町)は、戸数39戸、人口102人で過疎化、少子高齢化が進む山間地。「このままでは集落が途絶えてしまう」この危機感から、こしかないう宝を磨く交流・物流によるムラおこしのため活動している。次代の担い手となる若者を起業者として受け入れ「農業の6次産業化」「食事と宿泊施設の整備」「エコミュージアムによる誘客」の3部門を一体化した新しい農村産業づくりを行う。



エコミュージアム施設で食事をとるイギリス人家族

そこいかなければ味わえない「食や観光」の魅力作りなどを基本理念に据えた多面的事業は、未来に向けたムラづくりへの住民意欲を喚起し、産業刷新、若者の参入・定着、交流人口増大をもたらした。

6次産業化の本格稼働を軸に、農家民宿やレストランの開業、直売所の立ち上げ、旅行散策のための「ムラごとミュージアム」の開設につながった。今後は、実践者の立場から他地域に対してコンサルティングが行える組織にして、そのための人材育成にも取り組んでいく。

として多くのファンを獲得。さらに、この集落でしか味わえない食材や料理を、農家民宿2軒と古民家食堂で提供している。美しい農業景観、秋元神社に代表される神話史跡などのスピリチュアルスポットを生かした農村観光開発を目的としたエコミュージアムの取り組みは、メディア連携やSNSでの情報発信効果もあり、年間3万人近い交流人口を生み出し、インバウンド旅行者も訪れる新しい動きも見られるようになった。

「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより、地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信する内閣官房および農林水産省共催の「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」。昨年(第3回選定)は応募769地区のうち、30地区が選定され、昨年12月2日にグランプリと特別賞が決定した。本紙では4回にわたり、グランプリと特別賞、観光分野に注力している選定地区を紹介する。今週号では、特別賞を受賞した4地区の取り組みを紹介する。

特別賞 アクティブ賞 株式会社九神ファームめむろ



「障害のある子どもたちの働く場」と十勝ブランドのおいしい野菜を使った惣菜提供」を両立するために設立された会社。北海道芽室町で採れる野菜を加工する1次加工工場を設置し、町内の障害者や高齢者、若者の雇用の場を創出。1次加工した製品は、西日本を中心に惣菜店を展開している関連会社の工場(愛媛、福岡県)で惣菜に加工し、「十勝ブランド」を前面に出して販売している。

地元産野菜を地元加工
担い手は地元の障害者

加工作業の様子



加工作業の様子

「障害のある子どもたちの働く場」と十勝ブランドのおいしい野菜を使った惣菜提供」を両立するために設立された会社。北海道芽室町で採れる野菜を加工する1次加工工場を設置し、町内の障害者や高齢者、若者の雇用の場を創出。1次加工した製品は、西日本を中心に惣菜店を展開している関連会社の工場(愛媛、福岡県)で惣菜に加工し、「十勝ブランド」を前面に出して販売している。

「障害のある子どもたちの働く場」と十勝ブランドのおいしい野菜を使った惣菜提供」を両立するために設立された会社。北海道芽室町で採れる野菜を加工する1次加工工場を設置し、町内の障害者や高齢者、若者の雇用の場を創出。1次加工した製品は、西日本を中心に惣菜店を展開している関連会社の工場(愛媛、福岡県)で惣菜に加工し、「十勝ブランド」を前面に出して販売している。

今後は、体験開場を整備し、近くの国民宿舎と連携して全国の特別支援学校の修学旅行を誘致。生徒に、食に関する一連の障害者の情報も同時に発信している。

特別賞 チャレンジ賞 木頭ゆずクラスター協議会



需要開拓や販路拡大で
高品質と技術力を証明

木頭ゆず6次産業化商品

徳島県那賀町の6次産業化に取り組む企業と農協を核として2014年に設立された組織。地域の宝「木頭ゆず」の6次産業化や輸出などの新たな取り組みを促進し、鳥獣害対策、担い手育成といった地域課題の解決にも取り組んでいる。

木頭ゆずの産地でも、他の農産地域と同様に見られる、担い手の高齢化や現象、価格低迷、鳥獣害による生産力の低下に悩まされてきた。



パリで開かれた展示会でのPRの様子

同協議会では、全国の商談会へ積極的に出展して、地域一体となったPR活動を推進。産地市と連携し、木頭ゆずの缶詰、ユーハイやポン酢などのプライベートブランド(PB)商品を開発。同社の全国ネットワークを活用した販売により、販路拡大を実現した。昨年は木頭ゆずを使ったクリスマスケーキを開発し、木頭ゆずの知名度アップと全国展開を強力に後押しした。欧州でのゆず人気を受けて2013年から、フランスの外食

これらの需要開拓や販路拡大の取り組みで大きな成果を得たことは、木頭ゆずの高い品質と産地の技術力が証明された結果といえる。それが、地元JAによる加工原料の全量買い上げと加工単価の上昇につながり、生産者の意欲がますます醸成されるようになった。

今後はゆずを取り扱う企業の経営基盤を強化し、新たな雇用を生み出して山間部の人口減少に少しでも歯止めをかけたい。さらに、U・イターンなどによる新たな担い手確保、次世代への経営継承を進め、山間部での「もつかる農業」の成功モデルとして事業を育成したい。

ディスカバー農山漁村(むら)の宝
特別賞受賞の4地区の取組を紹介